

【実践報告3】

「絵本のお部屋」を通して家庭に寄り添う ～デジタル時代に育つ子どもたち～

境川保育園 保育士 助 安 明 美

1はじめに

「せんせ〜い。つぎこれよんで〜」「この本 かりたい！」本棚を覗き込み、好みの絵本を見つけた時の子どもたちの表情は、喜びや期待に溢れ弾んでいます。既に表紙から物語のストーリーを想像してワクワクしていることが伝わってきます。それは0歳児のクラスでも同じ。ヨチヨチ本棚に向かって歩いたかと思えば、全身を使って絵本を選び、誰に習ったのかドスンと腰を落としてページをめくり、「ウーウーバー」などと声を発し、お気に入りのページでしょうか？振り返って保育士に笑いかけたりする。どの園でもある日常の姿かと思えます。子どもたちは絵本が好きなのです。

しかし、成長していくにつれ子どもたちの読書離れは進みます。2001年には、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が定められ、大分県でも具体的な推進計画は既に第4次が発表されています。お蔭さまで、学校、図書館、民間団体、企業、様々な機関が連携し、子どもたちの読書環境は随分充実してきている事がわかります。乳幼児の視点だけでも、子どもたちが訪れる施設には絵本が取りやすい本棚や、保護者や祖父母がちょっと腰を落として読み聞かせが出来るスペース、お薦めの新刊、季節の絵本、読み聞かせの会など様々な工夫が施されている事を実感します。

子どもたちは絵本が大好きなのに、この問題はなかなか解決していかず、近年ではインターネットや電子書籍の普及により書籍の販売方法や提供媒体も大きく変化しています。デジタル時代の中で、上手な付き合い方についても課題は多いかと考えます。

本園では、このような時代背景を捉えつつ、これまでは園だよりの中で、絵本の紹介をしていましたが、今一度家庭への寄り添いや啓発活動が必要と考え、令和元年度より月1回の「絵本だより（絵本のお部屋）」を通して家庭と絵本を繋ぐことを目標に発信をしてきました。2年間の取り組みと成果を報告します。

2. 取り組み

①「絵本のお部屋」の発行（月1回）

活字離れが進んでいるのは、子どもより大人社会であると考え、以下の事に重点を置きながらA4サイズ1枚を発行。

リード文は・・・

- ◎短く分かりやすい言葉にまとめる。
- ◎エピソードや子どもの声を拾い、その場の雰囲気が伝わるようにする。
- ◎社会情勢に目を向ける。（子育ては視野を広く持った方が楽な時もある。）
- ◎キーワードになる言葉を掲示する。
- ◎作家や小児科医など専門家のコメントを短く紹介する。

～ ある月のお便りより ① ～

令和2年1月31日
別府大学 境川保育園
担当 助安 明美

絵本のお部屋 1月号

～裏表紙に込められたストーリー～

絵本を読み聞かせたあと、皆さんはどうやって本を閉じますか？パタンと閉じて「お・し・ま・い」かな。今月は絵本の裏表紙のお話を少し・・・。

お薦めの絵本には、裏表紙にこそ、作者の心がいっぱい詰まったストーリーが、多く描かれています。例えば皆さんご存じの「はじめてのおつかい」子どもたちに読み聞かせると、いつの間にかみんなが「みいちゃん」の気持ちになります。裏表紙は、ドキドキして買ってきた牛乳を赤ちゃんと一緒に飲みながら、転んで怪我をした膝にお母さんがテープを貼ってくれている挿絵です。子どもたちに、静かにこのページを見せると「はあー」と何とも言えない声が漏れます。「うずらちゃんのかくれんぼ」では、うずらちゃんとひよこちゃんを迎えに来てくれたお母さんたちが、お家に帰って抱きしめてくれている挿絵です。子どもの心に想像力と安心感を与えてくれるのです。

そんな話を聞くと、「あ～そうなのか！ならばと・・・」大人はつつい・・・、挿絵の説明をしなくなります。「ここみてごらん。ほら。ここ。お母さんがテープ貼ってる。」これでは、せっかくの余韻も幻滅です。絵本を閉じた後、静かに裏表紙だけを見せて「おしまい」にして頂きたい。子どもの心を豊かに・・・裏表紙のお話でした。

「はじめてのおつかい」

「うずらちゃんのかくれんぼ」

乳幼児期ならではの特等席は、お家の方のお膝です。背中から愛情がたくさん伝わると、安心感が生まれ落ち着きや集中力が繋がっていきます。

伝えたい事は
短くキーワードで
紹介し、
「これ何だろう？」
と興味を
持ってもらおう。

子どもたちとの
エピソードを
入れる。

読み聞かせで注意して
欲しいことは
場面を想像して
もらいながら
柔らかく表現。

～新コーナーのお知らせ～

絵本貸出しコーナーに、新しく保護者の方向けのコーナーを作りました。本屋さんの新刊含め、読みやすい物を選んでみました。家事も子育ても仕事もイキイキ歩みたいけれど、実際は毎日が必死！上手くいかない。本には、悩んだり行き詰ったりする時に、視点を変えたり、その時間は心がホッとしたり、人生のヒントがいっぱい隠れています。「本より寝たい～」というそのあなた！お迎えを待つ時間の立ち読みもOKです。

毎日のお迎えの習慣に1行の読書が出来たなら、「1行分」心が豊かになるはずです。

さて、お節なおばちゃん先生は、この新しいコーナーの本も、あれこれご紹介したいところですが、今日は、世界最高齢 96歳 現役薬剤師 比留間 榮子さんの「時間はくすり」より。

「ありがとう」は最高のくすりです。

幸せだから「ありがとう」ではなく

「ありがとう」が幸せを連れてきます。



優しくなる言葉や、
生活のヒントなど、
あらゆる分野の本から
抜粋して紹介する。

② 絵本貸出コーナーの整理・見直し

保護者も園児も出入りする玄関に貸出し用の絵本棚を設置している。全ての絵本が子どもの視点に入る範囲にあり場所と冊数が丁度良い。(送迎時忙しい保護者にとって、絵本貸出コーナーが広すぎない。)

- ・本棚にぎっしり本があったので、子どもでも出し入れしやすいよう冊数の見直しを行った。
- ・「絵本の病院」を設置。(落丁、破れ、折れなどがあった場合は、別のコーナーへ返却してもらい大切に扱うことや気持ちよく読んで頂けるようにした。)
- ・1年目は、出版から20年以上たっても子どもたちの心に新鮮に飛び込んでいくような絵本をお薦めコーナーに紹介した。
- ・2年目は、語り継がれている絵本を増やし、新刊を足しながら、本棚全ての絵本を、ストーリーに引き込まれていくような絵本に入れ替えた。
- ・乳幼児でも借りられる赤ちゃんコーナーを設置した。
- ・地域の方からの寄付の紹介や、いただいた絵本の紹介など。地域社会との繋がりを大切に考えられるよう掲示した。
- ・毎月のお薦め絵本は表紙が見えるように構成した。
- ・クラスで読み聞かせを行い、「借りたい」と声がるものをすぐに借りられるようにした。
- ・保護者向けコーナーを設置した。(話題の新刊や漫画、コメントが少ない読みやすい物など、家庭教育について何かしら保護者の寄り添いになればと考えた。)
- ・子どもの好きな図鑑を貸し出せるようにコーナーを設置した。
- ・時期によって本の入れ替えを行った。
- ・絵本購入時の参考になるポスターの掲示を行った。
- ・出来る限り劣化していない綺麗で借りたくなる絵本を置いた。
- ・絵本コーナーにホコリがたまらないようこまめな清掃・消毒を心掛けた。

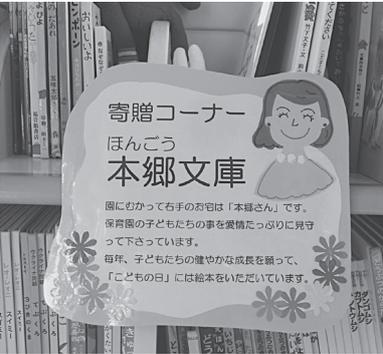
貸し出しコーナーの様子



「今日は何借りる～？
絵本探しは親子の幸せな時間・・・」



「担任は、毎日心を込めて
読み聞かせをします」



コーナーが変わるたびに
通信でお知らせします。

借りた本に、落丁や破れなどがあれば、「絵本の病院」へ運んでもらいます。誤って破ってしまった時は、「ごめんなさい」と伝えて、絵本のお医者様に良くしてもらいます。親子で物を大切にする事を学んで欲しいので設置しました。また、時々子どもの前で治療（修理）して元気になる様子を見せています。子どもたちは、心配そうに覗いて手伝ってくれます。



③ アンケートの実施

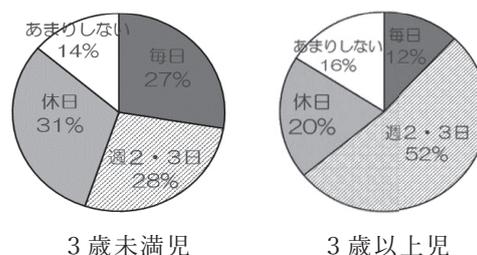
お便りが一方通行にならないよう、1年が終了した段階で実態調査を行い家庭の状況や質問事項などを受け付け、お便りに反映できるようにした。

3. アンケート（抜粋）から見てくる家庭の状況

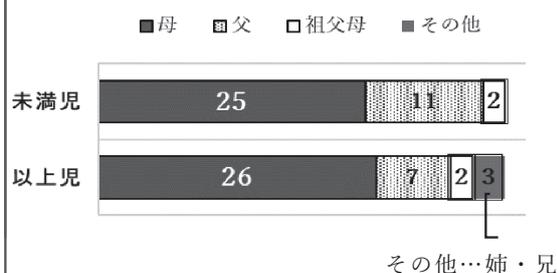
1. 読み聞かせはお子様に必要なと思いますか？

	未満児	以上児
必要だと思う	100%	100%
あまり必要だと思わない	0%	0%

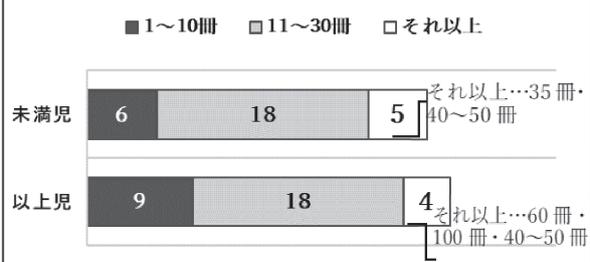
2. 自宅で読み聞かせをしますか？



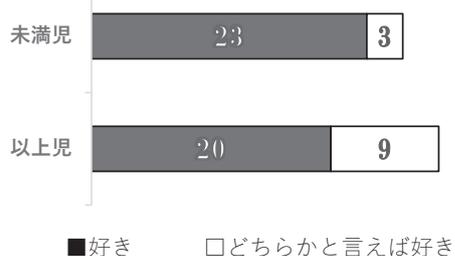
3. 主に誰がしていますか？



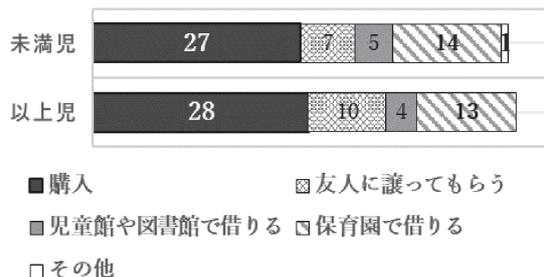
4. 家庭に絵本は何冊程度ありますか？



5. 読み聞かせをするのは好きですか？



6. 絵本はどのようにして準備していますか？



<考察>

アンケート結果から、各家庭が子どもにとって読み聞かせは必要と捉えている事は良くわかったが、育休明けや子どもの成長に合わせ、仕事と家事との両立が多忙になり、読み聞かせや親子の触れ合いの時間が充分に取れないことや理想と現実に悩んでいることなどが回答に記入されていた。

<対策>

絵本の読み聞かせが、いかに子どもの心に豊かさを得ていくのかを継続的に伝えていく必要性を感じた。また、読み聞かせが大切な事に理解は深いので、日頃の仕事や家事の両立に励ましや認め声かけ、読み聞かせをしなければならないという意識より、楽しさや幸せな気持ちを育む発信が必要だと考えた。

<課題>

保護者の自由記述の中には下記のような意見もあり、子どもたちの生活環境の中でどの程度のデジタル化が進んでいるのかを認識する必要性を感じた。

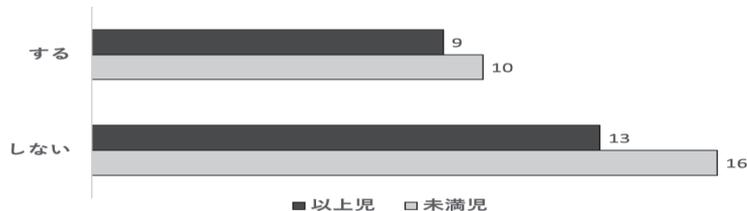
主に家で本を読む時は、アイパットの動く絵本で読み聞かせをしています。
子どもの本は大きさがバラバラで収納しづらく。字を読めないので動くものに興味がありアイパットをみたりします。(2歳児)

4. デジタル化における実態把握アンケート（抜粋）

① 絵本の読み聞かせにタブレット、パソコン、スマートフォン等を利用しますか？



② 絵本の読み聞かせは利用しないが、ゲーム等の遊びのアプリなどは利用しますか？



電子絵本に期待する点やメリットと思うことを教えてください。

- ・外出先でも簡単に見せることができる。
- ・手軽さが良い。
- ・自宅で簡単に閲覧でき、購入しに出かけなくて良い。
- ・保管場所に困らない。
- ・綺麗に保存されたまま読み返せる。
- ・音がでるなどの仕掛けが面白い。
- ・絵本は高価で無料のサイトだと家計が助かる。
- ・選ぶ本の幅が広がる。
- ・使い方を覚える。
- ・親の負担が減る。
- ・家事をしている間、子どもは集中して試しているので助かる。

電子絵本の心配な点やデメリットと思うことを教えてください。

- ・視力の低下。
- ・刺激が強く睡眠に害が及ぶのではないかと心配。
- ・姿勢が悪くなる。
- ・電磁波が心配。
- ・本をめくる経験がなくなる。
- ・依存症が心配。
- ・紙の質感を感じるのは子どもの成長に大切だと思う。
- ・親子のコミュニケーションがとりにくくなる。
- ・感情が伝わりにくくなるのではないだろうか。
- ・ページをめくる音や本の匂いが無いのは残念。
- ・整理整頓や本への愛着が薄くなるのではないかな？
- ・手先を使わなくなる。
- ・遊びと学習の区別がなくなるように思う。

<考察>

デジタル絵本を利用している家庭はまだ少なかったが、アプリやゲームの利用に関しては、一気に利用者数が上がっている。また、保護者の記述からはデジタル化において、内容の質よりも子どもの身体に及ぼす影響について心配している意見が多数であった。

5. 成果とこれから

「絵本のお部屋」の発信や絵本コーナーの見直しにより貸し出し数は年々増加してきた。また、令和2年度より開始した図鑑コーナーの設置により、園で時間をかけて見ることが出来にくい図鑑は、これまで貸し出し名簿に記名がなかった子の名前が上がるようになった。

保護者から記述があった課題については、今後も子どもの姿に注視しながら引き続き有効的な利用の仕方について調査していきたい。実際アプリを使用してみると、実に楽しく美しく作成されている物もある。しかしながら個人的に感じていることは、デジタル絵本と読み聞かせの意義については同じ土台にはないと考える。

何事も良い物を伝えたり浸透させたりしていく事は手間暇がかかる。保育は手間暇がかかり、大きな愛が必要になる。子どもと質の高い絵本との出会いは、美しい言葉や表現力を身につけ、想像力を豊かな物にする。更に温かな親の膝で語られる読み聞かせは、一生子どもの心に残り、人生の大きな支えになるはずである。だからこそ新しい物を正しく受け入れ、乳幼児期に正しい知識を発信していくことは、これからのデジタル時代の中で私たちの責務ではないだろうか。

子どもの読書問題に終わりはない。常に時代背景を捉えつつ、家庭のニーズとのバランスをとりながら、質の高いものを引き続き啓発し続けていかなければならない。保護者から「先生～。この間のお勧め絵本、面白かった～。」「絵本通信は元気になるわ～」と、お世辞であろうと思いつつも、ありがたい言葉に襟を正し、未来の子どもたちの姿を楽しみに今日も絵本を選びたい。

地道な取り組みこそが、必ず子どもたちを通して家庭へ愛を届けられると信じている。

